

恵那市議会委員会行政視察報告書

1. 委員会名 リニア中央新幹線対策特別委員会
2. 視察年月日 令和4年10月6日から令和4年10月7日まで 2日間
3. 視察委員名 後藤康司（委員長）、西尾 努（副委員長）、服部紀史、伊藤勝彦、
猿渡南江、町野道明、堀 光明
4. 随 行 者 議会事務局長 原田義巳、議会事務局書記 足立大輔
5. 視察地及び視察事項の概要

月 日	視 察 地	視察事項の概要
10月6日	・長野県飯山市（北陸新幹線飯山駅 他） 【北陸新幹線飯山駅周辺のまちづくりについて】	別紙のとおり
10月7日	・新潟県上越市（北陸新幹線上越妙高駅） 【北陸新幹線上越妙高駅周辺のまちづくりについて】	
	・富山県富山市（富山市内フード施工箇所） 【北陸新幹線線路のフード施工について】	
	・石川県白山市（白山市役所） 【車両基地を活かしたまちづくりについて】	

上記のとおり報告します。

令和4年11月28日

恵那市議会リニア中央新幹線対策特別委員会

委員長 後藤 康司

恵那市議会議長 鵜飼 伸幸 様

リニア中央新幹線対策特別委員会行政視察報告

リニア中央新幹線対策特別委員会は、今後、予測される当市における検討課題の調査研究のため、下記現地を行政視察したのでその内容を報告します。

1. 「北陸新幹線飯山駅周辺のまちづくりについて」

飯山市役所、北陸新幹線飯山駅（長野県飯山市）

1) 視察の目的

飯山市は北陸新幹線飯山駅が平成 27 年に開業し、恵那市では、平成 26 年に新政会が北陸新幹線飯山駅周辺地区の都市計画について行政視察を行った。過去に視察した飯山駅周辺のまちなみが、新幹線開業によりどのように変化したかを視察した。

2) 調査事項・概要

(1) 飯山駅周辺の都市計画と現状

平成 27 年に開業した北陸新幹線飯山駅整備に併せ、駅周辺を土地区画整理事業により整備 (7.7ha)。駅周辺に駅前広場や駐車場を整備するとともに商業施設の誘致。住宅地は既存住民を守りながら新たに住環境を整備。



▲飯山駅周辺（区画整理事業前）



▲飯山駅周辺（区画整理事業後）

(2) 効果

商業誘致は市有地の賃貸料の 10 年間無償化や固定資産税の課税免除等により駅前に 7 か所の商業施設を誘致、ホテルも令和 7 年に開業予定である。

観光客数は開業前と比べ全体では大きな推移はないものの、スキー場に近い立地特性により外国人観光客数が増加。



▲現在の北陸新幹線飯山駅周辺

3) まとめ

飯山駅周辺は開業前と比較して、整備がされ商業施設は増えているものの、住民からのアンケートでも「交通の便が良くなったが思ったほどの効果ではなかった」との意見があるように劇的なまちの変化は見られなかった。

駅ができるから賑わいを必ず生み出すわけではなく、恵那市には「歴史・文化・自然」など、多くの地域資源がある。これをどう活用しブラッシュアップしていくのが重要である。リニア開業に向けたモデルケースの一つとして大いに参考となる視察であった。



▲飯山駅周辺の説明を受ける委員

2. 「北陸新幹線上越妙高駅周辺のまちづくりについて」

北陸新幹線上越妙高駅（新潟県上越市）

1) 視察の目的

上越市は北陸新幹線上越妙高駅が平成 27 年に開業し、恵那市では平成 27 年に当委員会が北陸新幹線上越妙高駅周辺地区の都市計画について行政視察を行った。今回、過去に視察した上越妙高駅周辺が、新幹線開業によりどのようにまちなみが変わったかを視察した。

2) 調査事項・概要

(1) 上越妙高駅周辺の都市計画と現状

北陸新幹線上越妙高駅周辺（約 28.5ha）を土地区画整理。駅前広場や周辺都市計画道路を整備するとともに、駅周辺を商業用地として土地利用することにより、ホテルや集合住宅などを呼び込む。



▲H27 上越妙高駅周辺



▲現在の妙高駅周辺

(2) 駅周辺のまちづくり

上越妙高駅周辺地区商業地域への拠点性の高さを活かした施設や来訪者の利便性を高める施設の集積

①建築資金借入利子前払事業補助金

施設建設のために融資を受ける企業に対し、利息（10 年分）を前払いする

②進出企業奨励金

施設を建設するにあたり、新規に取得した固定資産（土地を除く）の固定資産税相当額を奨励金として交付

③レンタルオフィス・サポート事業補助金

駅周辺のオフィスに入居する企業に対し、家賃を補助

④優良建築物等整備事業補助金

2 階以上の建築物の建築費の一部（会談や廊下等の共同利用部分）を補助



▲駅周辺の土地利用の一例（フルサット）



▲フルサット内部

*フルサットとは…駅周辺のコア施設としてコンテナ建築による地元のカフェや雑貨屋などを誘致。8 棟の商業施設を有し上越妙高エリアのショールームとして地域活性化に活用。

3) まとめ

上越妙高駅周辺は平成 27 年の視察時と比べ、3 つのホテルが建設されるなど当時広がっていた田園風景から大きくまちなみに変化していた。

これは、上越妙高の物理的位置、拠点の優位性から、上越市の中心地である高田や直江津への移動に上越妙高を利用すること。上越妙高から中心市街地へ人を誘導するよう都市開発がすすめられていることがあげられる。そのため、駅周辺は交通の結節点として来訪者の利便性を高める施設が集積されている。

リニア駅は中津川市と恵那市の市街地の間にあり、条件は上越妙高に似通っている。恵那市がどう人を呼び込むのか、今後の政策を提言するうえで大いに参考となる研修であった。

3. 「北陸新幹線線路のフード施工について」

富山市内フード施工箇所（富山県富山市）

1) 視察の目的

富山市内にある北陸新幹線のフード施工箇所は、大井町7区のリニア計画と同様、半地下構造での施工、軌道の上越しでの道路の建設がなされている。現場を視察することでリニア開業後のイメージを共有した。

2) 調査事項

大井町野尻野畑地区のリニア工事で施工予定の線路のフード施工工事について、類似工法で施工されている富山市内の北陸新幹線線路を視察。

現場は閑静な住宅街に隣接しているため、新幹線が通過することによる騒音の影響・構造物のイメージを委員で共有する。



▲富山市内のフード施工箇所



▲恵那市フード施工（イメージ）

3) まとめ

フード施工箇所は実際に現場を視察することにより、恵那市で建設される線路のイメージを確認できた。騒音については、リニアと新幹線では通過の音量は異なるため参考にとどまるが、実際の通過状況を確認した。今後進められるリニアの建設に向け参考となる視察であった。

4. 「車両基地を活かしたまちづくりについて」

石川県白山市役所、北陸新幹線白山総合車両基地周辺（富山県富山市）

1) 視察の目的

石川県白山市では北陸新幹線の総合車両基地を有している。白山市では車両基地を活かしたまちづくりとして「(仮称) 白山総合車両所ビジターセンター」の活用を含めた周辺自治体を含めた広域的な観光プランを計画している。車両基地を活かしたまちづくりを学ぶとともに現場周辺を視察した。

2) 調査事項・概要

(1) 車両基地を活かしたまちづくり

白山市と鉄道の関係

白山市は北陸新幹線、JR 北陸本線、北陸鉄道の 3 つの車両基地が市内に立地しており、鉄道と共存・共栄している「鉄道のまち」である。

白山市ではこうした立地特性を活かし、北陸新幹線の車両基地のある白山総合車両基地に隣接する（仮称）白山総合車両所ビジターセンターを鉄道業者の協力のもと建設し、施設の活用を目指している。

(2) 施設概要

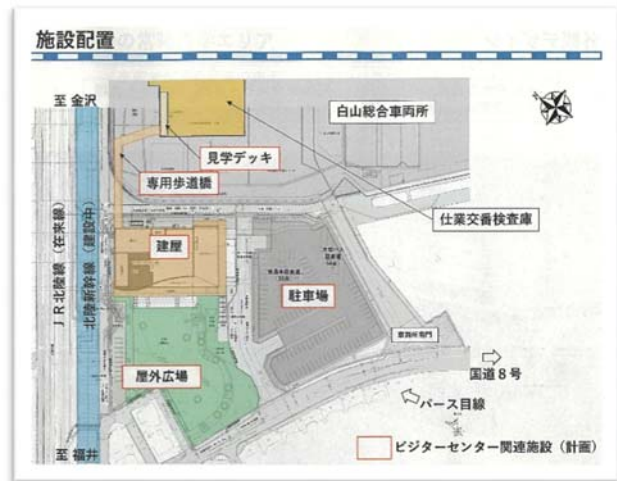
・見学デッキ

建屋から専用歩道橋を通過し車両所内のデッキへ移動可能。来館者が車両基地への予約不要で車両所内を安全に見学できる。

・ビジターセンター

観光情報・物販機能とともに、JR 西日本の協力のもと、新幹線技術の PR、総合車両所の紹介など鉄道に関する展示施設を併設。

・事業費 約 31 億円



▲施設配置図（計画）

3) まとめ

白山市は北陸新幹線金沢駅と小松駅の間に位置し、市内に新幹線駅ができなかったことから、市の特色を活かしたビジターセンターの建設に至った。

ビジターセンターは JR の協力のもと、白山市の拠点施設として建設されるが、成功の可否はどれだけ魅力を高めリピーターを獲得できるかが重要である。

リニア総合車両所が建設されるのは中津川市であるが、施設の活用方法の 1 例として意味のある研修であった。



▲説明を受ける委員